



人生という名の道

木更津総合高等学校 3年 今西 ななみ

「エイエイオー」

拳を高く上げ家族全員の声が病室中に響き渡った。

私は幼い頃から両親が共働きで祖母と過ごす時間が一番長かった。でもその時間が私は大好きだった。祖母は難病を抱えていて車いす生活をしている。身体を動かす事が大変なのに、いつも自分より相手最優先、困っている人を見かけたら放っておけない人だ。私は優しくて一番の味方で居てくれる祖母が大好きだ。そして憧れの人でもある。そんな祖母が良く口にする言葉、「感謝される人生を送りなさい。」

当時私は意味が理解できなかった。

そんな中、先日祖母が体調を崩して入院をした。コロナウイルスの関係で面会に行く事が出来なかったが、病状説明で病院へ訪れた際、医師からの衝撃の言葉を耳にした。

「もって、二、三日でしょう。」

何も考えられなかった。ただ胸が苦しかった。その後、病室に入ると、いつも通りの笑顔の祖母。久しぶりに会った祖母は、痩せ細っていた。そして「元気、大丈夫」と私たちを安心させるかのように口にしていた。最後に気合いを入れるため、「エイエイオー」をした。これでもう大丈夫と元気に笑っていた祖母

の笑顔が今でも頭に焼きついている。

その夜、祖母は亡くなった。笑っていた。まるで私はもう大丈夫だからと言っているかのように。最後まで弱い所を見せる事がない本当に強い人だ。そして、今になって祖母の言葉の意味が少し分かった気がする。

「感謝される人生」とは、相手が困っている時に一番の味方になる事、そして見返りを求めない『無償の愛』を注ぎ続ける事だと。私は祖母に感謝している。辛い時、悩んでいる時一番の味方でいてくれた。だから次は私が、誰かの一番の味方になると心に決めた。いつか私も、祖母のように感謝される人生を歩んでみせる。おばあちゃん、本当にありがとう。

(審査評) 難病を抱えていた祖母は、相手を気遣う気持ちを常に持っていた。そんな祖母からの「感謝される人生を送りなさい。」という言葉が今西さんの人を大切にすることを生み出し、将来は祖母のようになるという決意に結びついている。いつも傍にいて励まし支えてくれていた家族からの言葉だからこそ、いつまでも記憶と心に残り続けるのだと思う。きつと今西さんは、おばあちゃんから多くの優しさと強さを覚えたことだろう。今西さん、いつまでもその気持ちを大切にこれからも頑張ってください。

柿本遼平